

令和7年1月 15 日付【環境新聞】

水コン協 会長 間山 一典

＜官民連携の推進のためにマネジメントと壁を越えた連携＞

官民連携の推進のために マネジメントを超えた連携

全国上下水道
コンサルタント協会 会長 間山 一典



地域の安全で衛生的な環境を守る下水道は、老朽化・財源不足・人材不足と大きな課題を抱えています。また、令和6年能登半島地震をはじめとした頻発する自然災害は、国民生活の脅威となっており、このような状況に対し

下水道は、事業継続により国民生活を守る、大きな役割を担っています。

水道行政の大部分が国土交通省に移管され、能登半島地震では上下水道一体での復旧がいちばやく方針として示され、災害査定の間

素化も実施されました。会員企業からは、スピード感、機能強化を実感したとの声も聴かれています。

一方で、水道、下水道の耐震化や更新の遅れも課題として指摘されています。背景には、予算確保だけでなく、事業の執行体制もあざんと願っています。ヒト・モノ・カネの制約が強まる中で、従来通りの単純更新や事業手法では限界があります。コンサルタントとして、優先順位付け、デザインビルドなどの事業手法、さらには広域化などの事業再編を提案していきます。

ウォーターPPPも始まりまし

た。これからの時代、官と民が役割分担して、水インフラを支える時代と考えています。ウォーターPPPは、維持管理を起点として更新を考える、長期（10年）の性能発注により民間の創意工夫を発揮することが特徴と言われています。

そのためには、これまで以上に、民間のマネジメント能力が問われます。ウォーターPPPは、これまでの管理を起點として更新を考える事業手法です。維持管理、運転管理など、異分野との連携が不可欠です。当協会として

も、他団体との意見交換、意思の疎通を進めてまいります。

2025年には、当協会のビジョンを改定・公表します。現在のビジョンは、「これからの上下水道サービスの担い手としての挑戦」をスローガンとしてきました。挑戦から実践のステージに移行します。水インフラマネジメントの実践をキーとなる理念として、改定作業を進めています。

我々コンサルタントにとって、人材（財）が資本であり、生命線です。人材の獲得競争は、ますます激化します。人材確保のために

は、職業としての魅力、将来性が必要条件です。下水道には、公衆衛生という重要な役割に加え、創エネ・再エネ、資源循環や汚泥の肥料利用など、新たな役割も生まれようとしています。下水道は、その地域に眠る資源であって、それを活用することが、SDGsやカーボンニュートラルに貢献できる魅力ある職業です。下水道の役割・魅力、職業としての重要性を、そして水コンサルタントという職業を、協会としても広く広報・PRして人材の確保につなげていきたいと考えております。

は、職業としての魅力、将来性が必要条件です。下水道には、公衆衛生という重要な役割に加え、創エネ・再エネ、資源循環や汚泥の肥料利用など、新たな役割も生まれようとしています。下水道は、その地域に眠る資源であって、それを活用することが、SDGsやカーボンニュートラルに貢献できる魅力ある職業です。下水道の役割・魅力、職業としての重要性を、そして水コンサルタントという職業を、協会としても広く広報・PRして人材の確保につなげていきたいと考えております。